

石狩市の市指定文化財「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」

The cultural properties designated by Ishikari City,
'The wooden artifacts of *Ishikari Momijiyama No.49 site*'

荒山 千恵*

Chie ARAYAMA*

キーワード：市指定文化財，石狩紅葉山49号遺跡，木製品，縄文文化

1. はじめに

平成27年度に石狩市の市指定文化財に指定された「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」（以下，遺跡名を「49号遺跡」と略記）は，49号遺跡から出土した縄文文化の木製品のうち18点が選定されたものである。これらの木製品は，紅葉山砂丘の麓を流れていた縄文時代中期後半頃（約4000年前）¹の川と人々との関わりを示す貴重なものである。また，地下水の豊富な湿地の中に埋もれていたことで，残りにくい木製品が腐朽することなく出土した点も稀少性が高い。本稿では，これらの木製品の特徴について紹介する。

2. 49号遺跡における縄文文化の特色

49号遺跡は，石狩湾の現海岸線から約6 km内陸に位置する紅葉山砂丘の内陸側斜面から後背湿地にかけて立地する（図1）。発掘調査は平成7年から8年間にわたって実施され，調査面積は計19,808m²である（石狩市教育委員会，2005）。遺物の総数は9万点以上にのぼり，主な時代は縄文時代前期後半から後期初頭，続縄文時代初頭，擦文時代初頭，近世である。特に，紅葉山砂丘の南側に位置する湿地部では縄文時代中期の河川跡がみつき，河川漁にかかわる道具や魚捕獲用施設などが出土した。約4000年前の本遺跡の立地

は，当時の海岸線から約2 kmの位置にあると推定され²，当時の河川を利用した縄文文化の人々の活動を解明していくうえで重要な遺跡である。

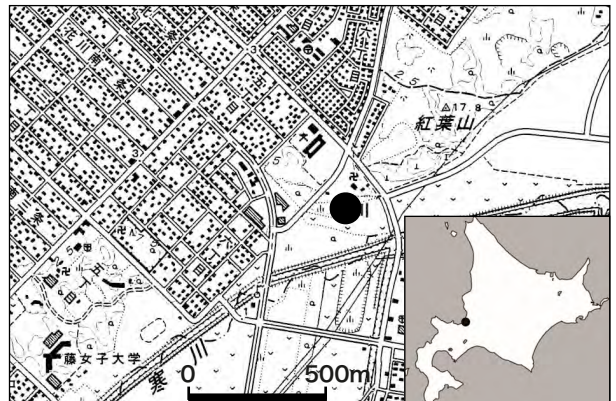


図1-1. 遺跡位置図（●）
（国土地理院 25,000分の1地形図に加筆）

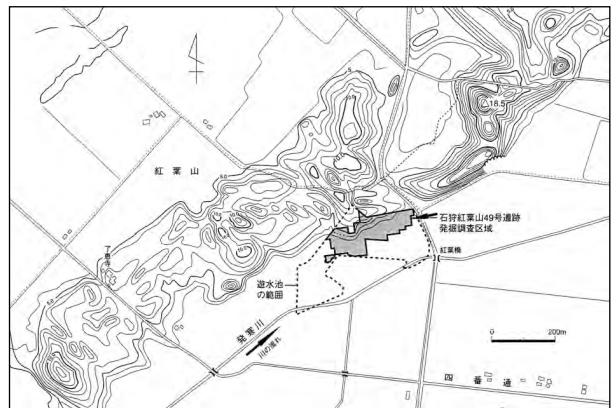


図1-2. 昭和36年当時の49号遺跡周辺地形
（石狩市教育委員会，2005から転載）

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

3. 個別資料の紹介

指定された木製品は、表1および図2から図5の実測図に示す資料である³。各図の番号は表1の通し番号に対応させるため、図3以降の図番は図2からの連番にして付けた。以下に、これらの個別資料の特徴について述べる。

(1) 柵

【遺構名：WP9（表1-1、図2-1）】

柵は、49号遺跡の特徴的な出土品の一つである。本例はこの遺跡に認められた33点のうちの1点で、ほぼ全形が明らかなものである。柵は、縦木21本・横木5本・ブドウ科のツル3本で構成される。縦木および横木の幅は約1.5cmで、歪みが

少なく、枝木を柵材用に加工・調整して組まれたものと考えられる。縦木に直交して組まれる横材には2種の方法が用いられ、一つは横木を縦木にブドウ科のツルの表皮を巻いて結束する方法、もう一つはブドウ科のツル本体を編む方法である。これら2種の方法を用いて、縦木の目幅が3～6cmになるように組んでおり、丹念に作られている。

(2) 横槌

【資料番号：97168（表1-2、図2-2）】

槌部と柄部を一つの木材から作り出している。槌部の幅は10.8cm、柄部の幅は5.0cmである。槌部の先端は尖った形状で、周辺から削り落とした粗い加工面が残る。用途としては、杭を河床に打ち込むための掛矢の可能性が考えられる。49号遺

表1. 市指定文化財「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」一覧。

番号	資料名	遺物番号 ／遺構名	種別	計測値 (mm)			樹種等
				縦	横	厚さ	
1	柵	WP9	漁撈具	2,860	1,170	—	縦木・横木（モクセイ科トネリコ属）、ツル（ブドウ科）からなる。
2	横槌	97168	加工具	440	108	84	クルミ科クルミ属オニグルミ
3	尖り棒	81315	加工具	1,013	32	33	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
4	石斧柄	83101	加工具	356	19	18	（モクセイ科トネリコ属 推定）
5	石斧柄	84029	加工具	554	23	21	クルミ科クルミ属オニグルミ
6	石斧柄	88998	加工具	*413	29	25	カエデ科カエデ属
7	石斧柄	91359	加工具	443	22	23	カエデ科カエデ属
8	石斧固定具	89130	加工具	150	45	19	マツ科モミ属
9	タモ	92389	漁撈具	1,835	428	23	カバノキ科ハンノキ属ヒメヤシャブシ
10	松明	91375	漁撈具	358	31	25	モクセイ科トネリコ属
11	魚たたき棒	97136	漁撈具	515	40	37	モクセイ科トネリコ属
12	舟形容器	89605	容器類	1,017	354	87	ウコギ科ハリギリ属ハリギリ
13	舟形容器	96580	容器類	432	*206	24	ウコギ科ハリギリ属ハリギリ
14	舟形容器	96769	容器類	465	215	50	カエデ科カエデ属
15	漆塗り浅鉢	83466	容器類	*192	*141	*12	（クワ科クワ属 推定）
16	柄付容器	96633	容器類	307	120	100	ウコギ科ハリギリ属ハリギリ
17	柄付容器	96925	容器類	278	117	42	クワ科クワ属
18	櫓	88961	交通運搬具	*1,608	71	20	モクレン科モクレン属

* は現存部の計測値。

跡では、この他に小型の横槌（槌の部分が斜めに欠損）1点が出土している。

（3）尖り棒

【資料番号：81315（表1-3, 図3-3）】

先端が尖り、もう一端は幅2.7cmから2.3cmの幅の柄頭を作り出している。報告書の所見において、先端部には斜めに擦り減った摩滅痕が認められており、突く・こそげ落とすような作業がおこなわれたことが推定され、樹皮の皮はぎなど木材利用にかかわるものと考えられている（石狩市教育委員会, 2005）。なお、本遺跡では、先端を尖らせたもの、あるいはへう状にしたものを対象に、尖り棒と推定される木製品（可能性のあるもの、転用品と推定されるものを含む）が計9点出土している。

（4）石斧柄

【資料番号：83101（表1-4, 図3-4）、84029（表1-5, 図3-5）88998（表1-6, 図3-6）、91359（表1-7, 図3-7）】／石斧固定具【資料番号：89130（表1-8, 図3-8）】

4点の石斧柄と1点の石斧固定具が該当する。石斧柄は、いずれも樹幹と枝木の又木となる部分を利用した木取りで、樹幹側を石斧装着部（斧台）に、枝木を柄の部分にしている。図3-4・6・7の石斧柄は、斧台の幅が3cm前後の設置面を作り出し、そこに石斧を装着した横斧と推定される。図3-4・図3-5には斧台の尾部に糸かけ部とみられる作り出しがある。図3-6も、本来は尾部に糸かけ部の作り出しがあったものが欠損したとみられる。また、図3-6・図3-7では、斧台先端部の背面に作り出しがあり、石斧固定用の可能性が考えられる。図3-7は、斧柄が波を打つように曲がっている。斧台の側面には刻みが彫り出されており、加工が丁寧である。図3-5の石斧柄では、斧台の形状が他の3点とは異なる。柄に対する斧台の角度が鋭角で、斧台の側面が広いのに対し、斧台の上面の幅は狭く2cmに満たない。想定される石斧の装着方法については、縦斧・横斧のいずれであるか

復元的解明に検討の余地を残す。横斧を想定する場合には幅の狭い斧刃が必要と考えられる。図3-8の石斧固定具は、斧台に装着する石斧に当てて挟み、しっかり固定させるものと考えられる。

（5）タモ

【資料番号：92389（表1-9, 図4-9）】

ほぼ完全な形が残り、テニスのラケットのような形状である。全長180cmを超える大型品である。Y字の枝木を利用して、柄と杵を一材から作り出している。杵は左右の枝先を曲げ合わせてブドウ科ツルの表皮を用いて結束する。杵に付けられていたと考えられるネットは残存していない。

（6）松明

【資料番号：91375（表1-10, 図4-10）】

先端が割り込まれ、焼けて黒く焦げており、特に先端部内側の炭化が著しい。割り込んだ部分に樹皮などを挟んで火をつけて燃やし、明りを灯したものと考えられる。割れ目は全体の半分近くに及ぶ。49号遺跡では、松明と推定される木製品（可能性のある資料を含む）が計5点出土している。

（7）魚たたき棒

【資料番号：97136（表1-11, 図4-11）】

野球のバットのような形状で、一端をグリップ状に削り出し、もう一端の先端は形を整えて削られており、丁寧に仕上げている。柄の部分は長さ約10cmにわたり全周が焦がされ変色している。魚たたき棒は、アイヌ民族や本州の民俗例、北米諸民族のサケ・マス漁にも使われる漁労具の一つである。49号遺跡で出土したのは本資料1点のみである。

（8）舟形容器

【資料番号：89605（表1-12, 図4-12）、96580（表1-13, 図5-13）、96769（図5-14, 図5-14）】／漆塗り浅鉢【資料番号：83466（表1-15, 図5-15）】／柄付容器【資料番号：

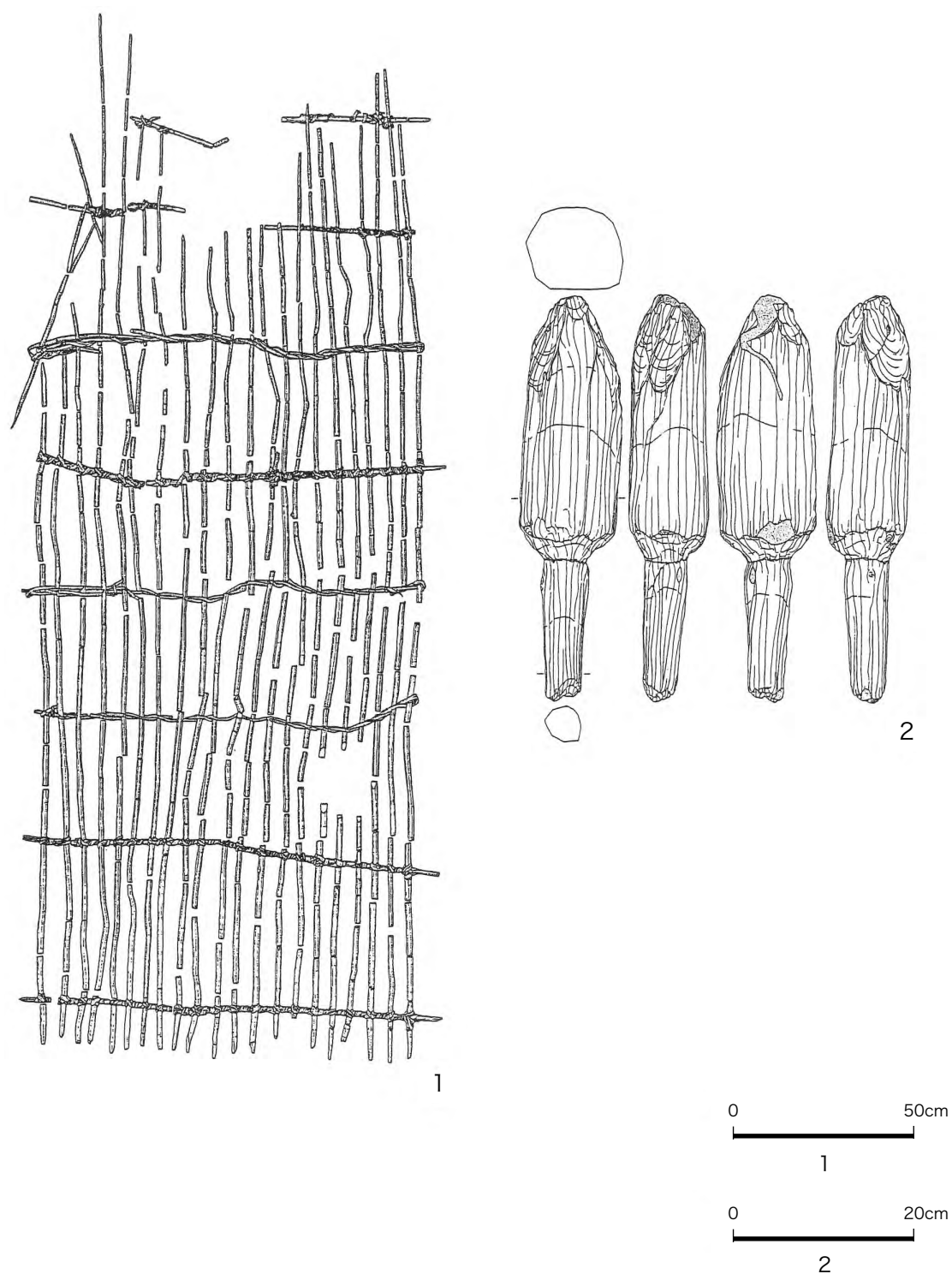


図2. 市指定文化財「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」実測図（1）.

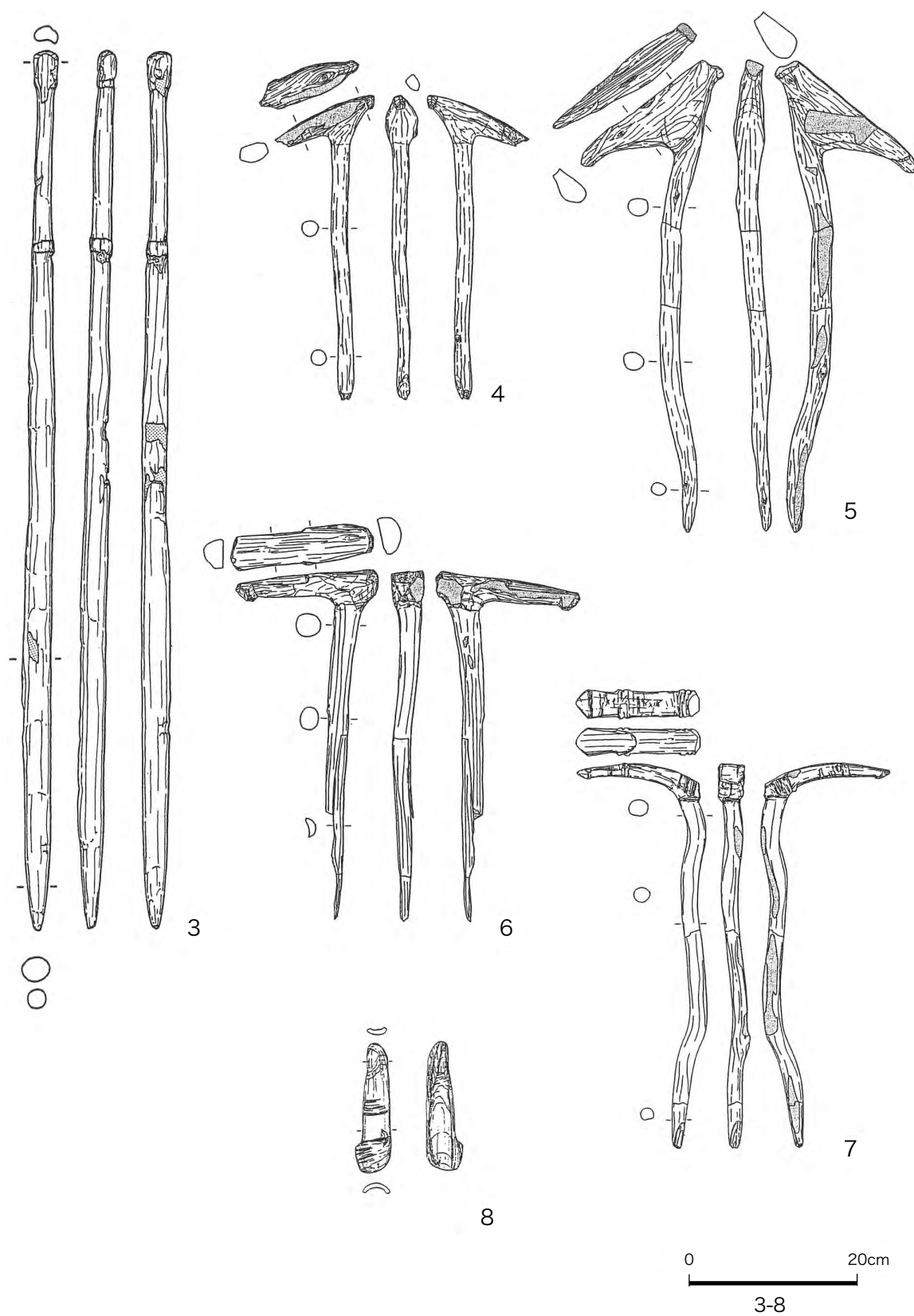


図3. 市指定文化財「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」実測図(2).

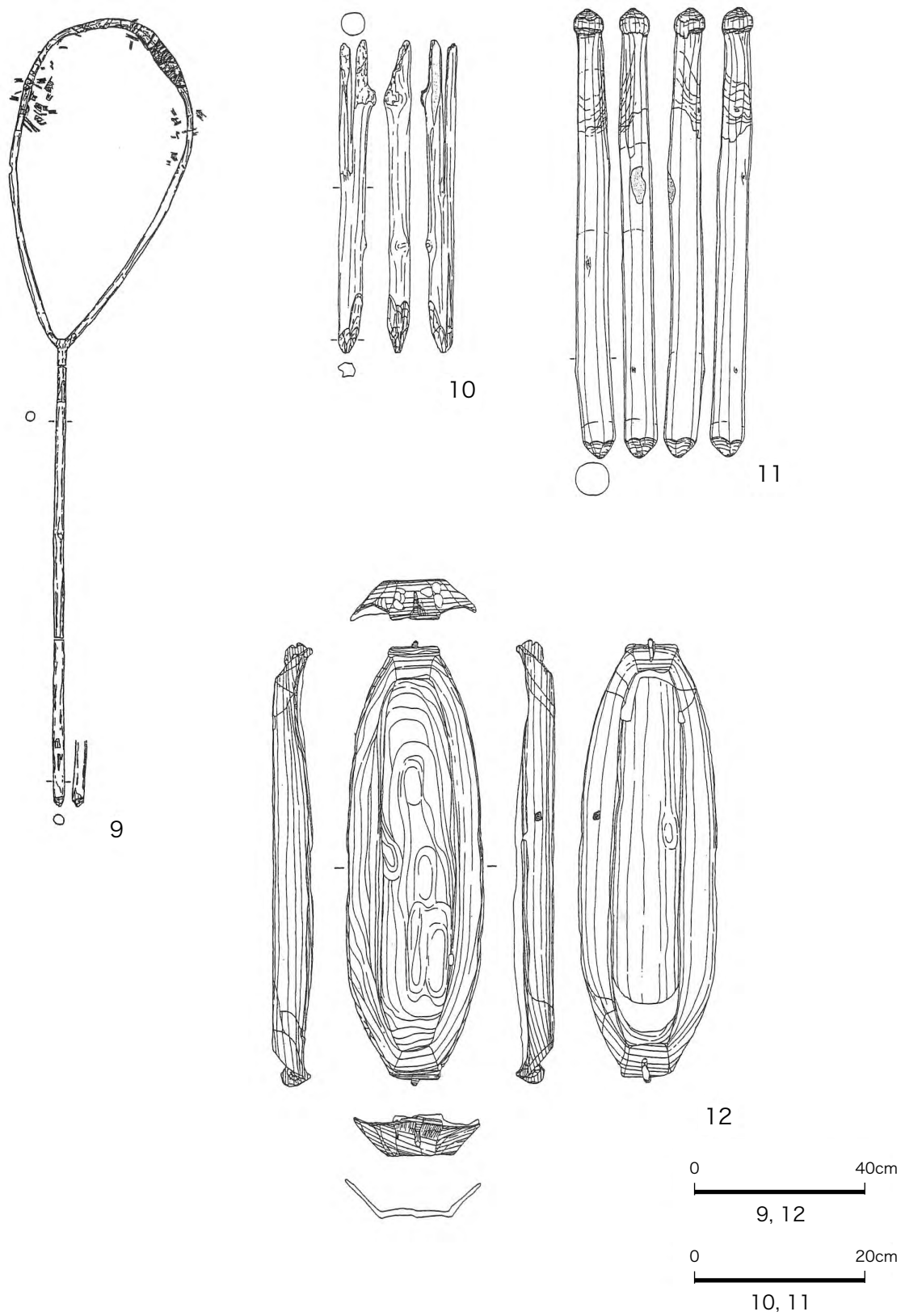


図4. 市指定文化財「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」実測図（3）.

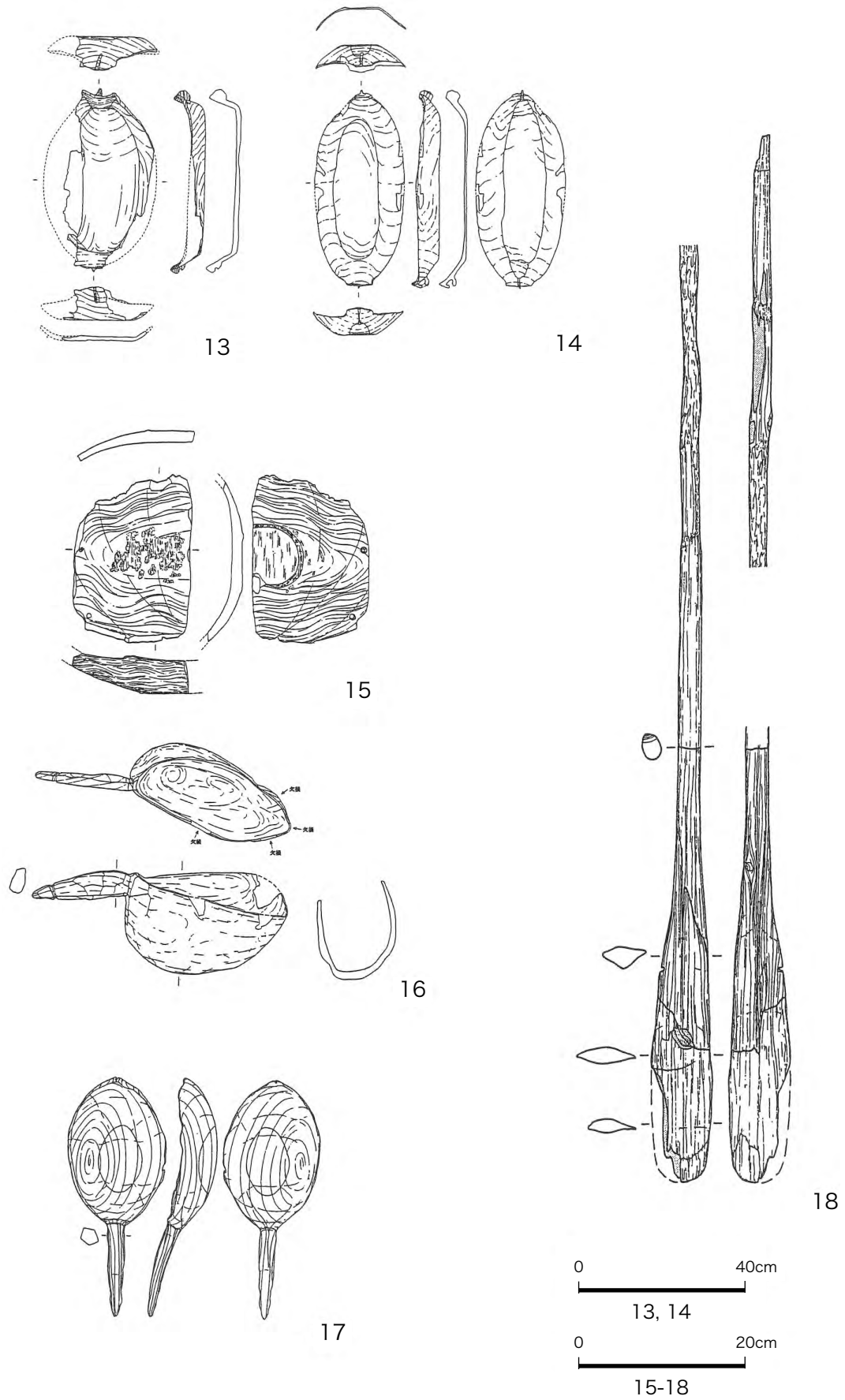


図5. 市指定文化財「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」実測図(4)。

96633（表1-16、図5-16）、96925（表1-17、図5-17）

49号遺跡では、破片資料を含めて33点の木製容器が出土し、そのうち舟形容器3点、柄付容器2点、漆塗り浅鉢1点が指定された。

舟形容器のうち、図4-12は長さ1mを超える大型品、図5-13および図5-14は長さが45cm前後の中型品で、いずれも横木取りした木材を利用して長さのある器を作っている。これら3点に見られる特徴は、器の両端部をやや高くし、その中央部に耳状の突起を作り出すことである。さらに、これら3点はいずれも片方の突起にのみ孔ないしは溝状の加工を施し、もう片方には施していない。両端部の細部の加工を非対象とする点に共通点がみられるのは注目される特徴である。

漆塗り浅鉢である図5-15は、内面に赤漆（ベンガラ）⁴が塗られたものである。底部には低い高台をもつ。器全体の底部から胴部下半までが残存し、器の上半部から口縁部にかけては欠損している。器には補修孔とみられる2つの穿孔が認められる。

柄付容器である図5-16・図5-17の2点は、報告書に「片口容器」として掲載されていたものである（石狩市教育委員会、2005）。いずれも柄と容器を一材から削って作り出している。図5-16は、土中に埋もれている間に器の部分に歪みが生じているが、器の部分を深く作り出した丸底で、掬う道具と考えられる。柄の末端寄りの位置に一周する溝が付けられており、そこに紐を巻いて吊して使用した可能性が考えられる。図5-17は、器の部分を浅く抉ったスプーン形である。本資料にも柄部の末端寄りの位置にわずかに窪みをもった溝が認められ、そこに紐を巻いて吊して使用した可能性がある。

（9） 櫓

【資料番号88961（表1-18、図5-18）】

ほぼ完全な形で出土したものである。水掻き部と柄部からなる全長約160cmの櫓を一材から削って作り出す。水掻き部の幅が5～7cmと狭い点が

特徴的で、本遺跡で出土した他の櫓の水掻き部においても形状にかかわらず幅の狭い傾向にある。49号遺跡では、欠損により櫓の水掻き部もしくは柄部のみと推定された資料を含めて少なくとも13点の櫓が出土している。そのうち10点の櫓において樹種同定がおこなわれ8点がモクレン属と確認されており、樹種を選択していた可能性が高い。櫓は丸木舟を動かす道具として、川での移動や運搬作業に欠くことのできないものである。49号遺跡では丸木舟の破片も出土している。

4. おわりに

以上、木製品18点の特徴について個別に資料紹介した。これらの木製品の多くは、発掘調査が終了してから10年以上を経た現段階でも日本各地の他の遺跡での類例は少なく、製作技術や使用方法、用途に未解明な点も残されている。新たな類例の発見とともに、さらに解明していくことが必要である。また、今回指定された18点の木製品をはじめ、これまでの49号遺跡に関する調査研究（石橋、2007；2011；荒山・石橋、2013等；荒山、2014；2015a等）に加え、縄文遺跡としての多角的な評価が求められていることはいうまでもないであろう。今後も調査研究を進め、49号遺跡に関わる展示や教育普及等（いしかり砂丘の風資料館、2005；2014；荒山、2015b；荒山、2016等）についても持続的に取り組んでいきたい。

附記

平成27年度に実施された49号遺跡を活用した、いしかり砂丘の風資料館の主催事業（展示・講座・講演会）について、以下に概要を報告する。市内小中学校での「石狩紅葉山49号遺跡を活用した出張授業・出張展示」については、本誌の別稿にまとめている（荒山2016）。

①期間限定展示「市指定文化財 石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」紹介（写真1・2）

市指定文化財に指定された49号遺跡出土の木製品の多くは、いしかり砂丘の風資料館の常設展示で既に公開されてきたが、平成27（2015）年7月30日から12月13日までの期間、市指定文化財に指定されたことを広く紹介することを目的に、来館者の方々に18点すべてをご覧い

ただけるように展示した。また、これらの木製品が出土したときの様子について、館内1-2階の階段壁を利用して写真により紹介した。

②テーマ展「石で作った縄文文化の道具たち—石狩紅葉山49号遺跡出土の石器—」（写真3・4）

いしかり砂丘の風資料館のテーマ展の一つとして、平成27（2015）年9月16日から12月13日までの期間に開催した。石狩紅葉山49号遺跡から出土した縄文文化の石器について紹介する展示内容で実施した。展示資料数は約90点で、主な展示資料は、石鏃・尖頭器・スクレイパー・石錐・ナイフ・石核・砥石・石斧（未成品を含む）であり、石器に関連する木製品として銚中柄・弓・石斧柄についても紹介した。

③体験講座「縄文文化の暮らしをジオラマで作ろう」（写真5・6）

平成27（2015）年10月10日（土）に、いしかり砂丘の風資料館を会場に開催した。石狩紅葉山49号遺跡をモデルに縄文文化の暮らしの風景について想像力を膨らませて表現し、紅葉山砂丘の麓を流れる川で活動する人々の様子が作られた。市指定文化財に指定された木製品を表現したものも含まれる。参加者11名で1つのジオラマを完成させた。作品はテーマ展に合わせて資料館に展示し、期間限定で石狩市民図書館においても展示した（⑤参照）。

④講演会「石狩紅葉山49号遺跡から縄文世界遺産へのメッセージ」（写真7・8）

平成27（2015）年12月5日（土）に、石狩市民図書館を会場に49名の参加者のもと開催された。講師は小杉康氏（北海道大学大学院教授）である。「縄文文化とは何か」というテーマのもとに、講演の前半では世界遺産登録の動向について、後半では縄文文化前半期における環境変化の中で構築された生業について、特にそれらを解明するうえで貴重な発見となった49号遺跡に対する再評価について述べられた。

⑤ミニ展示「縄文文化の暮らしをジオラマで見よう」（写真9・10）

講演会の開催に関連して、石狩市民図書館の閲覧室内でミニ展示を実施した。期間は、平成27（2015）年12月2日（水）～12月8日（火）である。展示の構成は、第一に体験講座「縄文文化の暮らしをジオラマで作ろう」（2015.10.10）の参加者が作成したジオラマの展示、第二に市指定文化財「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」を紹介する写真展示、第三に縄文文化関連図書（市民図書館所蔵）の紹介である。

ほどしか離れていないことになる。（中略）縄文時代中期4000年前の砂丘と海岸の関係は、砂丘から約2km、（後略）」（石狩市教育委員会、2005：10）と推定値を算出している。

注3 表1にまとめた各資料の計測値・樹種・各図の実測図については、石狩市教育委員会（2005）に基づき編集した。

注4 本資料の塗膜構造分析は石狩市教育委員会（2005：74-75）を参照した。

引用文献

- 荒山千恵，2014. 石狩紅葉山49号遺跡から出土した木製容器について. いしかり砂丘の風資料館紀要，4：13-24.
- 荒山千恵，2015a. 縄文時代中期における河川漁の捕獲用施設について—石狩紅葉山49号遺跡を例にして—. いしかり砂丘の風資料館紀要，5：13-21.
- 荒山千恵，2015b. 石狩紅葉山49号遺跡を活用した小・中学校における出張授業・出張展示の実施について. いしかり砂丘の風資料館紀要，5：67-75.
- 荒山千恵，2016. 石狩紅葉山49号遺跡を活用した小・中学校における出張授業・出張展示の実施について（2）. いしかり砂丘の風資料館紀要，6：13-23.
- 荒山千恵・石橋孝夫，2013. 定置式河川漁撈施設の構造材. 考古学ジャーナル，643：11-15.
- 石狩市教育委員会，2005. 石狩紅葉山49号遺跡発掘調査報告書. 石狩市教育委員会.
- いしかり砂丘の風資料館，2005. サケの考古学—紅葉山49号遺跡と北の鮭漁の歴史. いしかり砂丘の風資料館第2回特別展図録.
- いしかり砂丘の風資料館，2014. 川と人と漁—遺跡にみる縄文の河川漁—. いしかり砂丘の風資料館10周年記念テーマ展リーフレット.
- 石橋孝夫，2007. 定置式河川漁撈—石狩紅葉山49号遺跡の定置式河川漁—. 縄文時代の考古学5 なりわい，同成社.
- 石橋孝夫，2011. 北海道縄文人によるサケ資源の集約的利用の確立・展開—石狩紅葉山49号遺跡の評価—. 北海道考古学会2011年度研究大会—北海道の縄文文化研究の今—（資料集）：23-38.

注1 49号遺跡出土の木製品の帰属時期の推定は、石狩市教育委員会（2005）に基づく。

注2 約4000年前の海岸線の位置の推定については、石狩教育委員会（2005）に示されている。「赤松守雄（赤松，1996）によれば、縄文海進後の陸化速度は、平均すれば年1mペースと換算できるという。これに従えば、5000BPでは海岸線は石狩紅葉山49号遺跡と1km



写真1. 市指定文化財の紹介—指定された権の展示.



写真2. 木製品の出土状況の写真による紹介.



写真3. テーマ展「石で作った縄文文化の道具たち」(1).



写真4. テーマ展「石で作った縄文文化の道具たち」(2).



写真5. 体験講座「縄文文化の暮らしをジオラマで作ろう」の作成の様子.



写真6. 体験講座「縄文文化の暮らしをジオラマで作ろう」で作成したジオラマ.



写真7. 講演会「石狩紅葉山49号遺跡から縄文世界遺産へのメッセージ」講師紹介.



写真8. 講演会「石狩紅葉山49号遺跡から縄文世界遺産へのメッセージ」の様子.



写真9. ミニ展示「縄文文化の暮らしをジオラマで見よう」(1).



写真10. ミニ展示「縄文文化の暮らしをジオラマで見よう」(2).